

第56回経営協議会議事録

日 時 平成24年10月17日(水) 11時00分～12時30分

場 所 特別会議室

出席者 (学外委員)
赤岩委員、荒井委員、竹岡委員、鶴保委員、長友委員、安田委員、吉田委員
(学内委員)
梶谷学長、三橋理事、植村理事、児玉理事、石川情報理工学研究科長、
岡本情報システム学研究科長
(オブザーバー)
阿部副学長、安藤副学長、田中副学長、松山監事、岸監事

第54回経営協議会議事録報告承認(発言者名入りの議事録)

第55回臨時経営協議会議事録報告承認

議 題

□報告事項

1. 給与勧告について (資料①)
2. 復興関連事業の要望について (資料②-1～3)
3. 平成23年度間接経費等の使途の報告について (資料③)
4. 平成25年度概算要求事項について(文部科学省→財務省) (資料④)
5. 納品検収体制の充実強化について (資料⑤)
6. 平成23年度財務諸表の承認について (資料⑥)
7. 平成25年度国立大学法人等施設整備概算要求事業について (資料⑦)
8. 若手研究者の自立的な研究環境整備促進事後評価について (資料⑧)
9. 平成24年度産学連携イノベーション促進事業補助金の応募について (資料⑨)
10. 平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」の交付内定について (資料⑩)
11. 国際交流協定締結の提案について (資料⑪)

□討議事項

1. 「ミッションの再定義」について (資料⑫-1～2)

議 題

- 報告事項 1 給与勧告について
児玉理事から、人事院からの給与勧告の骨子について報告があった。
- 報告事項 2 復興関連事業の要望について
児玉理事から、給与改定臨時特例法に基づく国家公務員の給与削減と同等の給与削減相当額の一部を活用した復興関連事業への要望について、文部科学省へ復興関連事業計画調書を提出した旨報告があった。
- 報告事項 3 平成 23 年度間接経費等の使途の報告について
児玉理事から、平成 23 年度間接経費等の執行状況について報告があった。
- 報告事項 4 平成 25 年度概算要求事項について（文部科学省→財務省）
児玉理事から、文部科学省より提示のあった平成 25 年度概算要求事項等について報告があった。
- 報告事項 5 納品検収体制の充実強化について
児玉理事から、納品検収体制の充実強化を図るため、財務課内に「納品検収室」を設置し、全教職員に対して納品検収の基本ルールの周知徹底を行い、加えて、納品検収の確実な実施を行う旨報告があった。
- 報告事項 6 平成 23 年度財務諸表の承認について
児玉理事から、平成 23 年度財務諸表について、9 月 26 日付で文部科学大臣から承認された旨報告があった。
- 報告事項 7 平成 25 年度国立大学法人等施設整備概算要求事業について
児玉理事から、文部科学省より提示のあった施設整備概算要求事業および施設整備の事業評価結果について報告があった。
- 報告事項 8 若手研究者の自立的な研究環境整備促進事後評価について
三橋理事から、平成 19 年度文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」に採択された、「先端領域若手研究者グローバル人材育成」プログラムの事後評価成果報告書を提出した旨報告があった。
- 報告事項 9 平成 24 年度産学連携イノベーション促進事業補助金の応募について
三橋理事から、経済産業省の平成 24 年度産学連携イノベーション促進事業補助金の応募について、クラウドマッチングシステムの構築による新たな産学コンソーシアムの取組みを申請した旨報告があった。
- 報告事項 10 平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」の交付内定について
梶谷学長から、平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」に採択された「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」について、文部科学省から交付内定の通知があった旨報告があった。

報告事項 11 国際交流協定締結の提案について

梶谷学長から、本学がインドネシア情報通信省 I C T 研究・人材開発局と国際交流協定を締結した旨報告があった。

討議事項 1 「ミッションの再定義」について

児玉理事から、10月11日に開催された「国立大学のミッションの再定義に関する説明会」の概要および工学分野の今後のスケジュール等について説明があり、意見交換を行った。

出された意見は以下のとおり。

- (学外委員) 産業界の疲弊化が進んでいる中で、大学が果たすべき役割をしっかりと捉えていく必要がある。
- (学外委員) 国立大学協会は本件についてどのような意向を表明しているのか。
- (学 長) 今後何らかの宣言を表明するとは聞いている。
- (学外委員) 本学が現在取り組んでいる施策を一貫して進めていけばよいのではないか。
- (学外委員) 平成25年度概算要求事項における提示額にも表れているとおり、本学が取り組んでいる事業等は十分社会にアピールできるものなので、それを変えるのではなくアピールのチャンスと捉えるべきではないか。
- (学外委員) 時流に流されずに、やるべきことを地道にやっていく必要がある。拙速は避けるべきだ。

(閉会 1 2 時 3 0 分)

[配付資料]

- ①. 給与勧告の骨子
- ②-1. 平成25年度予算の概算要求組替え基準について
- ②-2. 復興関連事業の要望について
- ②-3. 復興関連事業計画調書
- ③. 平成23年度 間接経費等の使途の報告について
- ④. 平成25年度概算要求について
- ⑤. 納品検収体制の充実強化について
- ⑥. 平成23年度財務諸表の承認について
- ⑦. 平成25年度国立大学法人等施設整備概算要求事業
- ⑧. 先端領域若手研究者グローバル人材育成 事後評価成果報告書
- ⑨. 産学連携イノベーション促進事業補助金申請書
- ⑩. 平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」の交付内定について (通知)
- ⑪. 国際交流協定締結計画書
- ⑫-1. 国立大学改革
- ⑫-2. 「ミッションの再定義」について

[参考資料]

1. 学長コラム (平成24年10月16日 第33号)
2. かじと一く (No. 54~55)